

長野県

安曇野市

自然、文化、産業が
織りなす
共生の街 安曇野



人口 96,249人 面積 331.78 km²

都市の特長

北アルプスの麓に広がる美しい自然が特徴で、市内からは燕岳や常念岳などの3,000m級の山々を望むことができる。豊富な湧水や充実したかんがい用水を活用した、わさび・水稻栽培やニジマスの養殖が盛んである。

安曇野市

AZUMINO CITY

自然、文化、産業が
響き合う 安曇野
共生プロジェクト

人里近くに広がる里山は、かつて生活するために欠かせない場所であった。しかし、生活様式の変化により、里山に人が入らなくなった結果、市内には伐期が過ぎても放置されている森林が増加している。放置森林は、森林の土砂災害防止機能・生物多様性低下や、ニホンザルなどの鳥獣被害の増加の原因となっている。安曇野市では、市民や事業者が行政と連携し、里山再生活動「さとぶろ。」に取り組んでいる。

01 「ニホンザル追い払い隊」による活動

全国的にも珍しい「ニホンザル追い払い隊」は、市内外の住民からの公募をし、91名の会員が所属している(2024年1月)。主な任務は人里に下りてきているニホンザルを山側に追い払うことで、地域の農業被害を軽減し、住民の安心安全を守ることである。首輪に取り付けられた発信器により、サルの群れの位置を把握し、効率的に追い払い活動を展開している。本取組により、人間活動と野生動物との適切な距離を保つことで、人と自然が共存する持続可能なまちの形成を目指していく。

発信機を使い
効率的に活動



市産材の活用促進
楽しみながら



02 里山再生活動「さとぶろ。」の推進

「さとぶろ。」では、4つのプロジェクトの下で里山再生に関する多様な取組を進めている。目指す里山の未来像を「1.多様な環境から成り立つ里山」、「2.多くの人々が里山を資源として利用」、「3.災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山」としている。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 里山まきの環プロジェクト | 薪の地産地消を推進 |
| 2 里山木材活用プロジェクト | 市産材の活用を促進 |
| 3 里山学びの環プロジェクト | 里山に必要な知識・技術を学ぶ |
| 4 里山の魅力発見プロジェクト | 里山で楽しむ魅力を発信する |

03 里山プラットフォームとしての「さとぶろ。機構」の構築

里山での活動を
連携により推進



「さとぶろ。機構」を里山のプラットフォームとして構築することで、「さとぶろ。」を組織的に推進する土台とする。「里山」をキーワードに、多様な分野から市民、事業者、教育機関、地域団体など様々な主体が「さとぶろ。機構」に集い、情報を共有するとともに、連携を生んでいく場の1つとする。その中で、里山で稼ぎ、学び、守る活動へ参加する場を共創することで、里山保全や木材活用などのプロジェクトの推進に結びつけていく。

各取組の
詳細はこちら

取組 01 ▶



取組 02 03 ▶



北アルプスからの眺め



特産品のわさび



インタビュー

Interview

01 「さとぶろ。」による里山再生活動のこれから



(左) 安曇野市政策部政策経営課
主査 柳澤 直樹 さん

(右) 安曇野市農林部耕地林務課
係長 末永 純一 さん

「さとぶろ。」は市の里山再生計画に基づいた取組の愛称で、今年で10年目になります。市民が自分の好きなことを行い、楽しみながら里山再生に関わることをモットーとしています。

これまでの活動の環が大きく広がりを見せる中で、「さとぶろ。機構」を中心に、外部資金の獲得や、プロジェクト横断の活動推進を進めていきます。

今回の選定は、これまでの10年の活動の集大成であり、これからの活動の基盤整備に着手するきっかけになりました。里山再生は長い期間を要するものであり、この基盤を活かして活動を進めていきたいです。

02 里山と人の暮らしとの関わりを現代的な形で再生



信州大学 人文学部
准教授 茅野 恒秀 さん

安曇野市里山再生計画(「さとぶろ。」)は、全国に類例のない、里山再生に関する行政計画です。その核心は、人の暮らしと密接にかかわることで形成・維持されてきた里山環境を、現在は薄れてしまった人の暮らしとの関わりを現代的な形で再生させることで、環境再生に繋げていこうという市民参加の仕組みづくりにあります。本計画の推進協議会の会長を10年に渡って務め、里山再生に関する調査研究や市民との協働の仕組みづくりを支援してきました。今後は、この安曇野市での取組を大学としても、さらに水平展開していく努力が必要だと考えています。

今後の展望

市の将来ビジョンに共生の視点(ジェンダー平等、多文化共生、ユニバーサルデザイン)を包括的に持ちつつ、自然、文化、産業の共生を図っていく。

今後は、「さとぶろ。機構」の法人化やニホンザル追い払い隊と「さとぶろ。」の連携などを進めていく。里山資源の活用を目指した市内製造業との連携、市内の里山保全の推進、Jクレジットの創出、他の取組との連動により、里山資源の循環活用を図ることを目指している。

そのほかの
取り組みメタバースを活用した
安曇野体験

場所を選ばずに安曇野を仮想体験できるツールであるメタバース空間を構築。オンラインを通じた関係人口の創出を図る。



あづみの自然保育

安曇野の自然を通じて子どもたちがのびのびと成長し、食育や環境教育、地元産業への理解を深める「あづみの自然保育」を推進している。

きのご廃培地を活用した
バイオマス発電

きのご廃培地をバイオマスボイラー用の固形燃料として生成し、熱を供給することでエネルギーの地産地消につなげる。

